

自治医科大学卒業生の 「役割」と「他大学卒業生との違い」のはなし

秩父市大滝国民健康保険診療所 所長 栃村亮太（医師6年目）

私の勤務地

秩父市大滝国民健康保険診療所



今日の私の目標

自治医科大学が必要とする
医師像を皆さんに伝える

最初に結論

自治医科大学で必要とされる医師は

医療過疎地で以下を行える医師

- ①専門分野にこだわらない
- ②病気への治療だけで完結しない
- ③限られた地域で仲間と協同して自らが成長できる

自治医科大学 設立の趣旨

医療に恵まれないへき地等 における

医療の確保向上及び地域住民の福祉の増進 を図る

自治医科大学のミッション

1. 医の倫理に徹し、医師としてのプロフェッショナリズムと豊かな人間性をもった人格の形成に力を注ぐ。
2. 高度な医学知識と実践的な研究能力を涵養し、常に進歩しつづける医学の様々な分野に対応できる総合的な臨床能力を備えた医師を育てる。
3. 医療に恵まれない地域で進んで医療に挺身し、地域のリーダーとして必要な教養と資質を備え、社会の進歩に貢献する気概を持った医師を育てる。

他大学の主眼

自治医の主眼

自治医科大学 最大の特徴

入学金、授業料の全額免除のかわりに

9年間の義務年限

(初期研修 2年 + 指定医療機関勤務 7年間)



いわゆる「へき地・医療過疎地」での勤務

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、

地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、

地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

義務年限の影響

医師の一般的なキャリアを知っていますか？

医師のキャリア

一般の医学部

自治医科大学医学部

国家試験合格

初期臨床研修2年間

後期研修3-5年
(専門医取得のための研修)

専門医試験合格

〇〇専門医として勤務

県内の医療過疎地へ派遣
義務年限 7年間

秩父市立病院
小鹿野中央病院
大滝診療所、名栗診療所
深谷赤十字、小川赤十字

医師として自由に勤務

義務年限の間に専門医を取れることもある
例) 内科専門医、外科専門医
総合診療専門医くらい

後期研修3-5年
(専門医取得のための研修)

専門医試験合格

専門医をとれなかった先生は
ここから専門医研修等を行う

へき地勤務の特殊性

若手医師には結構ハード / ○○専門医取得には不利

一般の医学部

国家試験合格



初期臨床研修2年間



後期研修3-5年
(専門医取得のための研修)

研修体制の整った病院
で、基本1つの科に絞っ
て専門家の指導を受け
ながら研修できる。

自治医科大学医学部

県内の医療過疎地へ派遣
義務年限 7年間

秩父市立病院
小鹿野中央病院
大滝診療所、名栗診療所
深谷赤十字、小川赤十字

専門家への相談体制や
指導体制がない中、基
本的に多科の診療に関
わる必要がある。

勉強の焦点も絞りにくく、
学ぶことが多い。

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、

地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、

地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、
地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、

地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の業務も多い

地域医療としての「医療」

地域医療とは？

「患者さん」が抱える病気への治療だけでなく、健康上の不安や悩み、介護問題についても適切な対応をするとともに、医療機関外へも目を向け、「住民」が安心して生活できるよう医学的見地から行政的な保健・福祉などの支援も行うこと

医療＝治療ではない
あくまで治療は医療の一部でしかない

高度な専門外来・入院治療が必要な方

一般的な入院治療が必要な方

定期の外来通院が必要な方

定期通院はしないが、
時々医療機関にかかる方

元気でたまにしか医療機関に
かからない方

A市

病気への治療

安心して生活できるよう 医学的見地から支援

(地域住民への活動、行政活動等)

≡地域医療

高度な専門外来・入院治療が必要な方

一般的な入院治療が必要な方

定期の外来通院が必要な方

定期通院はしないが、
時々医療機関にかかる方

元気でたまにしか医療機関に
かからない方

A市

地域医療をする医師

総合病院にいるような専門治療を担当する医師

高度な専門外来・入院治療が必要な方

一般的な入院治療が必要な方

定期の外来通院が必要な方

定期通院はしないが、
時々医療機関にかかる方

元気でたまにしか医療機関に
かからない方

A市

地域医療をする医師

高度な専門外来・入院治療が必要な方

一般的な入院治療が必要な方

定期の外来通院が必要な方

定期通院はしないが、
時々医療機関にかかる方

元気でたまにしか医療機関に
かからない方

B市

地域医療をする医師

高度な専門外来・入院治療が必要な方

一般的な入院治療が必要な方

定期の外来通院が必要な方

定期通院はしないが、
時々医療機関にかかる方

元気でたまにしか医療機関に
かからない方

C市

地域医療をする医師

へき地勤務の特殊性（≡地域医療の特殊性）

専門科が少ないので、

基本的には何科に関わらず診る

※内科・外科のおおまかにはわかる



- (1) 若手医師には結構ハード
- (2) ○○専門医取得には不利

そもそも医師が少ないので、
地域の医療リーダーとしての存在



治療以外の仕事も多い

地域医療としての「医療」

結論①

自治医科大学で必要とされる医師は

医療過疎地で以下を行える医師

①専門分野にこだわらない

②病気への治療だけで完結しない

③限られた地域で仲間と協同して自らが成長できる

結論②（自治医科大学のメリット）

9年間の義務年限で

- ① 専門性は落ちるかもしれないが、
総合力（多科を診る力、在宅・緩和医療も含む）はかなりつく
- ② 患者さんだけでなく、地域へ医療を提供することを学べる
- ③ 医師としての教養やタフさを身に着けることができる

ご清聴ありがとうございました